



Robotic Increase Center

日本ロボットビジネス体系講座 2018-2019

JAPAN ROBOT BUSINESS SYSTEM LECTURE 2018-2019

毎月開講

ワレラの時代



ロボットビジネスに本気で取り組む新たなプレイヤーを募ります。

- ◆日本のロボットビジネスの基礎から実践、今後の展望までを大局的かつ体系的に解説。
- ◆国内外、分野別、企画から開発、実証実験、商品化に至る全過程を客観的なデータと実務に基づく豊富な利活用事例を交えて検証。
- ◆これまでの受講者の意見、要望を踏まえ「本当に知りたい」急所をピンポイントで解説。

開講日 (各日 13:00~17:00 木曜日) ※1日4時間の集中講座(1回完結)。連続した講座ではありません。

2018年 ・10月11日(第51回) ・11月8日(第52回) ・12月6日(第53回)

2019年 ・1月17日(第54回) ・2月21日(第55回) ・3月14日(第56回) ・4月18日(第57回) ・5月23日(第58回)
・6月20日(第59回) ・7月11日(第60回) ・8月22日(第61回) ・9月19日(第62回)

会場: 習志野オフィス

主催: 認定NPO法人ロボティック普及促進センター

開講日 (各日 13:00～17:00)

2018年 - 2019年毎月開講

2018年

第51回 10月11日(木)

第52回 11月8日(木)

第53回 12月6日(木)

2019年

第54回 1月17日(木)

第55回 2月21日(木)

第56回 3月14日(木)

第57回 4月18日(木)

第58回 5月23日(木)

第59回 6月20日(木)

第60回 7月11日(木)

第61回 8月22日(木)

第62回 9月19日(木)

※講座内容は同じですので、ご都合の良い
講座日をお選びください。

会場：習志野オフィス

(JR 総武線 津田沼駅から徒歩 5 分)

ワレラの時代



I 基礎編

1. 我々は今時代のどこにいるのか、どこへ向かおうとしているのか

- ・ Society 5.0 の先 ～ワレラの時代 誰もがよりクリエイティブで活躍の時間を生きる～
- ・ Out of 生産性の向上 ～先進テクノロジーと社会保障を両輪で考える～
- ・ グラン☆ロボティック ～ヒトと機械と社会との劇的関係性 物理的行動を伴うリアル社会のサービスが中心に～
- ・ AI とロボット ～今できることと将来できそうなことの境界線～
- ・ データ入力デバイスとしてのロボット
- ・ パブリック・アクセプタンス (社会的受容性) ～心理・倫理・プライバシー～

2. 日本や海外のロボット関連施策、地方自治体の動向

3. 海外の最新動向 (注目すべきロボットを中心に)

- ・ 北米 (アメリカ、カナダ)、欧州 (ドイツ、フランス、イギリス、オランダ、デンマーク、スウェーデンなど)、アジア・他 (中国、韓国、シンガポール、オーストラリア、イスラエルなど)

4. ロボット産業の分野別国際競争力

5. ロボットのオペレーティングシステム (OS)、シミュレータ、コントローラ

II 実践編

1. 現状を知る

- ・ 国内外のロボット販売台数
- ・ ロボットなど先進技術の展示会 (国内/海外)
- ・ ロボットビジネスにおける産学官連携 ～うまくいった試しはあるのか～
- ・ 一筋縄ではいかないロボットビジネス ～ロボット導入を阻むもの～
- ・ 無理が通れば道理が引っ込む ～アコギなことをしてはいけない～

2. なにから手をつけていけばいいのか

- ・ 企画から開発、実証実験、商品化または導入、利活用
～事業規模、予算、スケジュール、販売方法、販路、サポート (メンテナンス)～
- ・ 社内説得方法 ～ロボット導入または事業化による社内変化～
- ・ 失敗する (うまくいかない) 確率の高い例、成功の匂いのする例

主催：認定NPO法人ロボティック普及促進センター

日本ロボットビジネス体系講座 2018-2019

JAPAN ROBOT BUSINESS SYSTEM LECTURE 2018-2019

対象者：ロボットビジネスに興味がある人。

特に、新規事業としてロボットビジネスを検討している。いまからロボットビジネスを初めても大丈夫だろうか、ロボットビジネスをどのように自社の収益に結びつけばよいかわかっている。本業で行き詰まりを感じている。ロボットビジネスで他社の先を行く戦略を考えたい。社内の事業再編で新たにロボットビジネスに関わるようになった。半日でロボットビジネス全般 (国内外の最新動向、安全、事例等) を網羅的に把握したい。ネットやTVニュースからのバラバラな情報ではなく、ロボットビジネスを体系的に学んでみたい。ロボットビジネスを自社のビジネスに取り込みたい経営者や管理職、技術は理解しているがビジネスや業務にロボットをどう活用していくか悩んでいる技術者など。

少人数 (個別対応)

企業、団体機関などで社員や担当者向けに本講座をご希望の場合は、出張講座を行います。ニーズに応じた短時間の目的別講座 (例えば、産業用ロボットの導入や介護ロボットユーザー動向など) も可能です。

また、認定NPOならではの利害関係のない中立で公正なロボットビジネス適正診断「ロボット・セカンドオピニオンサービス」(ロボットメーカー選択の妥当性や見積もり額診断、行政コーディネータや企業コンサルタントの業務内容チェックなど) も行っています。

詳細についてはお問い合わせください otoiawase@npo-ric.org

- ・ロボットに適した分野 ～今後期待される業種～
- ・Slerの見分け方 ～産業用ロボットと協働ロボットは似て非なるもの～
- ・ロボットに関わる法律
- ・資金調達方法 ～補助金、助成金 そのメリット、デメリット～

3. 安全性の確保

- ・本質安全、機能安全、リスクアセスメント
- ・予防/回避行動 ～止めるから「止めない」へ ロボットもケガをしないように～
- ・国際認証 (ISO13482、TS15066 など)、GDPR (EU 一般データ保護規則)
- ・多層安全 ～安全パッケージで考える～
- ・損害保険
～ロボットやドローン、自動運転車、サイバーセキュリティなどの先進技術の保険～
- ・アプリ開発に潜むリスク
- ・ロボティック・リテラシー ～リスクを共有する社会の醸成～

Ⅲ 事例編 (ケーススタディ / ビジネスモデル)

- ・企業別ベンチマーキング
～ロボットを活用したサービス事例 B to B B to C～
- ・分野別ベンチマーキング
～生活支援、高齢者支援 (介護 / リハビリ)、作業支援 (物流・倉庫 / 建設 / 工場 / 空港・鉄道・道路・港湾 / 清掃 / 食品・店舗・外食 / 農業・酪農 / 医療など)、極限環境
- ・体系講座受講企業動向
- ・ディスカッション

申し込み

下記メールアドレスに必要事項を記載の上、お申込みください。

seminasanka@npo-ric.org

件名：日本ロボットビジネス体系講座 受講申し込み

必要事項：受講講座日、氏名、企業機関名、部門、年代、所在地、メールアドレス、電話番号、振り込み予定日、受講理由

料金(税込)：3万円

ゆうちょ銀行 (郵便局) 口座からお振込みの場合

(記号) 10530 (番号) 45074781

[名義] トクヒ)ロボティックフキュウソクシンセンター

※ゆうちょ銀行 (郵便局) 以外の金融機関からお振込みの場合

(店名)〇五八 (ゼロゴハチ) (店番) 058 (預金種目) 普通預金

(口座番号) 4507478

[名義] トクヒ)ロボティックフキュウソクシンセンター

※受講日の5日前までにお振込ください。

※入金確認後、当日案内、事前資料をメールでお送りします。

※領収書は講座当日にお渡しします。

※請求書の発行には発行手数料がかかります。

各日とも講座内容は同じ (最新の情報提供) です。ご都合の良い講座日をお選びください。

講座終了後、個別相談にも応じます。

シンクタンクやコンサルティング職などの方からの申し込みはお断りする場合があります。

※ロボットの最新動向を反映する講座にするため、講座内容が一部変更される場合があります。



Robotic Increase Center

認定 NPO 法人ロボティック普及促進センター (RIC) について

ロボティック普及促進センターは、かわさき・神奈川ロボットビジネス協会の会員有志などが中心になって設立。

現在、企業や研究機関、自治体などと連携して、ロボット関連技術の普及促進に関する事業を行っている。

2011 年 4 月 設立 (認証)

2013 年 12 月 指定 NPO 法人

2014 年 8 月 認定 NPO 法人

ホームページ <http://npo-ric.seesaa.net/>

メールアドレス otoiawase@npo-ric.org

※認定 NPO 法人とは、「より客観的な基準において、高い公益性をもっている」と所管官庁 (都道府県の知事、又は指定都市の長) により認定された法人。個人が認定 NPO 法人へ寄付をした場合、「寄付金控除」制度が適用され、確定申告をすることで税金の還付 (最大 50%) を受けることができ、法人の場合は損金に算入できる金額が拡大される。また、相続人が相続財産を寄付した場合は相続税が非課税になるなど、より高い税制優遇が適用される。

Challeng ing・・・ロボットビジネスはチャレンジの連続。

ロボットをどうすれば実用化でき、ビジネスとして成り立つことができるのか。ロボットをビジネスにしようとすればするほど、さまざまな課題が生まれ、幾多もの壁にぶつかる。

本講座では、そうした一筋縄ではいかないロボットのビジネス化について、実務を通じて考え、実践・経験したことで得た様々な知見をフル動員して、ロボットビジネスを取り巻く国内外の最新動向から、インターネットやTVニュースからでは絶対に得られない実態・ウラ事情を含む「本音の話」まで、日本のロボットビジネスを大局的かつ体系的に解説する。

ロボットビジネスに関心はあるのだけど、どの分野から始めるか悩んでいる、これからロボットビジネスを新規事業としてはじめたい、今までロボットビジネスに携わってきたが収益に結びついてこない、そんなロボットビジネスに関わるすべての方々に十分満足してもらえるよう、真に「骨太のロボットビジネス体系」を目指すと共に、これまでの受講者の意見、要望も踏まえた「本当に知りたい」急所をピンポイントで解説。日々巷であふれる情報に振り回され、何が真実なのかと戸惑うあなたの「モヤモヤ感」をクリアにし、次のステップにつながる橋渡しを試みたい。あなたはきっと、自分の現在地を確認し、目指すべきロボットビジネスの方向性を深く理解することができるだろう。

2014年の開講以来、受講をきっかけにロボットの事業を立ち上げたり、事業化の準備やロボットの開発に乗り出す新たなプレイヤーが数多く誕生している。5年目を迎え、利活用事例（ケーススタディ/ビジネスモデル）を大幅に拡充すると共に、新たなプレイヤーとの交流会も開催していく。

小林 賢一



- 1 ロボットと暮らす上質で新しい生活=ロボティック・ライフスタイル®・コミュニケーション・サイト「ロボカーサ・ドットコム」(2005年～)
- 2 夫婦とロボットが繰り広げる大人のコメディ。ロボティック・ドラマ第一幕 [Sex Bargain Robot] (2010年、2012年)
- 3 ロボット保険サービス
ロボットや自動運転車、サイバーセキュリティなどの先進技術の保険 (2013年～)
- 4 日本ロボットビジネス体系講座 (2014年～)



講師：小林賢一

認定 NPO 法人ロボティック普及促進センター 理事長
株式会社ロボットメディア 代表取締役

ロボット産業創出推進懇談会 座長 (2016～)、ロボット保険サービス 代表 (2012～)、かわさき・神奈川ロボットビジネス協議会 事務局長 (2011-2015)、ロボット実証実験実行委員会 委員長 (2011-2014)、介護・医療分野ロボット普及推進委員会委員 (2010～2012) など。

2005年 ロボットの調査、マーケティング、コーディネート、プロモーション支援を行う (株) ロボットメディアを設立。これまで介護、医療、生活支援、住宅、宇宙、レスキュー、パーソナルモビリティ、自動掃除機、パワーアシスト機器、テレプレゼンス、無人機などのロボット関連技術に関する国内外90を超える調査、400人を超えるロボットキーパーソンへの取材を行う。

2007年に調査・執筆した「高齢者・障害者の次世代自律支援機器の市場性と介護施設のニーズ分析」が、神奈川県 の介護・医療分野ロボット普及推進事業 (2010年) の基礎資料となり、その後の介護ロボットの普及・実用化につながっていく。

2011年 ロボットの一層の普及を目指す (N) ロボティック普及促進センターを設立。

同年、かわさき・神奈川ロボットビジネス協議会事務局業務を開始 (～2015年6月)

また、同年から3年間、神奈川県実証実験支援事業の実証実験実行委員会委員長を務め、実証実験の運営手法、安全性の確保など、ロボットが普及していくために必要なノウハウについて、総合的に取りまとめる。

2013年 NPO法人として日本で初めての損害保険代理業務 (名称：ロボット保険サービス) を開始し、ロボットやドローンの実証実験、自動運転車のデモ走行、サイバーセキュリティなどの先進技術の保険や安全に係るコンサルティングを行う。

2014年 ロボットビジネスの新たなプレイヤーになるための「日本ロボットビジネス体系講座」を開始。

2015年～2016年 関東経済産業局管轄の広域関東圏 (1都10県) におけるロボット関連施策に関する行政ヒヤリング及び注目すべきロボット関連企業、その利用動向調査を実施。

2016年 利害関係のない中立で公正なロボットビジネス適正診断「ロボット・セカンドオピニオンサービス」を開始。

2017年 スウェーデン労働博物館 (ARBETETS MUSEUM) の「日本の高齢者ケアにおけるロボットと新しいテクノロジー」展のためのインタビュー及びロボット活用現場の視察先取材に協力。

2018年 セミナー「日本のロボットの2019年問題 ～“ロボット”に引っ張られ過ぎないためのロボティックディスカッション～」(6月 東京ビックサイト) を開催。

これまで、介護・高齢者見守り、インフラ点検、建築施工、搬送運搬、清掃、コミュニケーション、協働ロボットなどの開発、利活用、セカンド・オピニオンに多数関わり、現在、ロボットビジネスに関する様々な相談に対応している。

また、ヒトと機械と社会との劇的關係性 (グラン☆ロボティック) に関するロボティック・シンポジウムも定期的に開催している。

これまで開催したロボティック・シンポジウム

第1回「ロボット関連技術の境界線 ～発展する無人機の可能性と国際動向～」

(2013年11月 東京ビックサイト)

第2回「5年後の世界 ～ロボット、量子コンピュータ、量子暗号～」

(2016年1月 東京ビックサイト)

第3回「ロボットテクノロジーの劇的進展とベーシックインカム究極の社会保障」

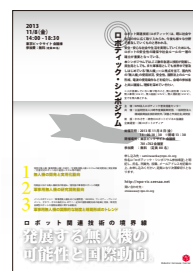
(2016年6月 サムライインキュベーター)

第4回「ワレラの時代 ソサエティ 5.0の先にあるもの ～幸福・AGI・BI～」

(2017年2月 東京ビックサイト)

第5回「ロボットビジネス・プレイヤーズ・サミット ～日本ロボットビジネス体系講座4周年記念シンポジウム～」

(2017年10月 幕張メッセ)



ロボティック・シンポジウム
「ロボット関連技術の境界線
～発展する無人機の可能性と
国際動向～」(2013年)



ロボティック・シンポジウム
「ロボットテクノロジーの劇
的進展とベーシックインカム
究極の社会保障」(2016年)



ロボットビジネス・プレイヤーズ・サミット
日本ロボットビジネス体系講座
4周年記念シンポジウム
(2017年)

日本ロボットビジネス体系講座 受講者アンケート集計結果より

受講をきっかけに、ロボットの事業を立ち上げたり、事業化の準備やロボットの開発や利活用に乗り出すプレイヤーが数多く誕生しています。

受講者の主な所属先 (社名は受講時)

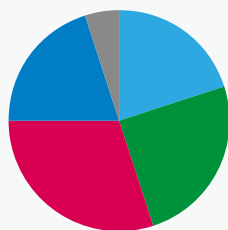
アール・ティー・シー、伊東商会、インテック、オムロン、オリックス・レンテック、キャノン、京二、ゴールドマン・サックス証券、サムスン電子ジャパン、サン・フレア、シナノケンシ、新東工業、積水ハウス、ソニー、大東建託、大豊産業、大和総研、東京エレクトロニクス、東京海上日動火災保険、東急急行電鉄、トーマンエレクトロニクス、豊田通商、豊通エレクトロニクス、日刊工業新聞社、ニッタ、日東電工、日本経営合理化協会、日本総研、日本発条、日本ユニシス、日本立地センター、野村総合研究所、パナソニック、パナソニック アプライアンス社、パナソニック オートモーティブ&インダストリアルシステムズ社、パナソニック AVC ネットワークス社、東日本計算センター、日立システムズ、フジタ、富士通マーケティング、藤森工業、文化シャッター、ボストンコンサルティンググループ、本田技術研究所、マクニカ、三井化学、安川電機、山形銀行、有人宇宙システム、楽天、リコー、リコーテクノロジー、DMM.com、IHI エアロスペース、JSR、JTB コミュニケーションデザイン、KDDI、OKB 総研、SCREEN ファインテックソリューションズ など

主な受講理由

- ・ ロボットビジネスの基礎を体系的に学びたい
- ・ ロボットビジネスを新規事業として検討している
- ・ ロボット市場や他社の動向が気になる
- ・ 国内はもちろん海外の最新ロボットビジネスについて知りたい
- ・ これからのロボットビジネスのヒントを得たい
- ・ ロボットビジネスをはじめたいけれど、どこから手をつければいいかわからない
- ・ ロボットの活用事例を探している
- ・ ロボットの実用化に関連する法律や社会制度を知りたい
- ・ 技術的な話ではなく、ビジネスや事業に直結する信頼性のある情報を得たい
- ・ ロボットベンチャーやロボット製品を扱う企業を知りたい
- ・ ユーザー導入事例を知り、自分たちのサービスと協働したい

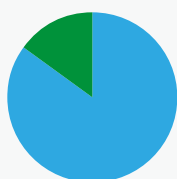
受講後の動向

- ロボットビジネス開始
- 準備中
- 検討、模索中
- 中断、中止
- その他



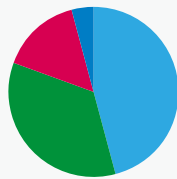
性別

- 男
- 女



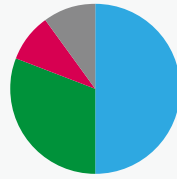
年齢

- 40代
- 30代
- 50代以上
- 20代



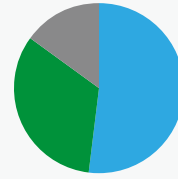
職業

- 会社員 (新規事業)
- 会社役員
- 行政・関連機関職員
- その他



ロボットビジネスとの関わり

- 関わっている
- 今後関わる予定
- 関わっていない



受講者の感想

期待以上

期待通り

その他

- ・ 少人数で知りたいことを具体的に教えてくれた。(コンピュータシステム開発経営・40代男性)
- ・ ロボットビジネスは難しそうだと思っていたが、講義を受けていろいろなアイデアが浮かんできた。(貿易スタートアップ・40代女性)
- ・ Sler事業の難しさが良く理解でき、長期スパンにたった事業展開を考えるベースができた。(機械半導体商社事業開発部門・50代男性)
- ・ 広範囲の情報、特に海外の情報・事例が多く、かつ、経験に基づいた知見を聞くことができた。(建築土木システム開発部門・30代男性)
- ・ 想像していた以上にビジネスの観点から具体的な考え方を学ぶことができた。(金型成型メーカー営業部・20代男性)
- ・ 他では知り得ない情報が満載だった。(インターネットサービス・30代男性)
- ・ ロボット産業全体の流れ、展望など、まさにロボットビジネスの「体系」を学ぶことができた。(情報コンテンツ配信企画開発部門・40代男性)
- ・ 膨大な資料(情報)の提供は今後のビジネスを考える上で大変参考になった。(インフラ電気通信エンジニアリング経営・60代男性)
- ・ ロボット産業の現状について包括的に知ることができた。(人材派遣・20代男性)
- ・ バラバラだった知識をまとめて再度学ぶことができた。(半導体機器メーカー販売部門・40代男性)
- ・ ロボットビジネスの難しさを実感できたが、逆にあきらめずにやっていこうという気になった。(ICTソリューション新規事業部門・40代男性)
- ・ 大きな枠での話で大変有意義だった。ビジネスの急所をイメージできた。(自動車用電子部品メーカー・30代男性)
- ・ 具体的なアプローチ方法について学ぶことができた。(航空宇宙機器メーカー営業部門・30代男性)
- ・ 自分では調べきれない情報や傾向などが効率良くまとまっていた。(住宅建設メーカー研究開発部門・30代女性)
- ・ これからロボットビジネスに関わっていく方に向け、いくつかのアプローチを平易に解説していた。半日で現状のサービスロボット分野の動向を整理することができ、大変お得だった。講義のブレイクダウンの仕方もとても良かった。(新聞社IT部門・40代男性)
- ・ 日本だけでなく欧米の最新情報を収集することができた。(精密加工メーカー経営・50代男性)
- ・ 長い経験に基づく体系的な内容だった。(ICTソリューション新規事業部門・30代男性)
- ・ ロボットの最新のデータを得ることができた。(地方自治体職員・40代女性)
- ・ 講座で学んだことはすべての企画に当てはまる。コトを起こすことに必要な考え方。ロボット産業を含め、どのように我々の生活に応用し、人々の生活の質を向上させ、ビジネスとして成り立たせるか、考えたい。(電子機器開発メーカー経営・40代男性)
- ・ 同じ内容で複数回開催されていたので、参加しやすかった。(産業用ロボットメーカー技術開発部門・20代女性)

- 切り取り -

FAX 047-493-2490

日本ロボットビジネス体系講座2018-2019
メールでの申し込みができない場合にお使いください。(FAX用)

■ 受講希望講座 第 回 / 月 日

■ 振込予定日 月 日

氏名 (ふりがな) 年代 男性・女性

企業・機関名／部門 (役職) 所在地

メールアドレス 電話番号

受講理由

※FAX 受信後、確認のメールを上記メールアドレスにお送りします。